

九国プレ 2018

解答・解説

九州国際大学付属中学校

国語

〔解答〕 (配点) 〔一〕 37 点 〔二〕 43 点 〔三〕 20 点

〔一〕 (計 37 点)

問一 ①共感 ⑥程度 ②はんぱく ④ひらりつ ⑤簡単 (各 2 点)

問二 A ウ B イ C エ (各 2 点)

問三 ア (4 点)

問四 旅行の思い出がよみがえてくるから。 (4 点)

問五 自分の刻印を残した本 (4 点)

問六 (例) 線を引かずに読むと、読みながらの記憶を呼び起すのに時間がかかり、本の内容が定着しないし、本を売ってしまつて、読み返すことが出来ず、新たな発見や感概をもよおしたり、過去の自分の考えに懲心をもつたりするところが出来なくなるから。 (5 点)

問七 エ (4 点)

〔二〕 (計 43 点)

問一 ③ぼち ⑥階段 ②はいいろ ④液体 ⑤全身 (各 2 点)

問二 A エ B イ C ア D ウ (各 2 点)

問三 突然の侵入者 (4 点)

問四 ウ (4 点)

問五 (1) ももつぶ (4 点)

(2) 声は上ずついていく。 (4 点)

問六 (例) 私は、初めて見る螢の光に不思議さを感じたり、その光を見ていると音が吸い込まれて消えているように思えたりしているから、現実の世界ではない別の世界に居るような感覚になつたからだと思うな。 (5 点)

問七 イ (4 点)

〔三〕 (計 20 点)

問一 ①ウ ②イ ③エ (各 2 点)

問二 ①うろこ(鱗) ②水(みず) ③つる(鰐) (各 2 点)

問三 ①方正 ②道断 ③絶後 ④花鳥 (各 2 点)

〔解説〕

〔出典 『読書力』 齋藤 孝〕

問一 漢字は一画一画ていねいに書きましょう。また、漢字には「音読み」と「訓読み」があるので、漢字を新しく習つたときは、両方覚えるようにします。

問二 空らん前後の文と文の関係をどうぞましょ。Aの前の文は、本に線を引くとそれは「自分の本」になり、「しっかりと」なることがあります。後の文では、それを「旅行先の地図」という例をあげて説明しているため「たとえば」が入ります。B前後の文は、「地図は「自分の地図」になる」（理由）と「その地図は捨てがたいものになる」（結果）という関係になるため「すると」が入ります。Cの前後の文は「数分の一」と「十分の一」で、一つの事柄をならべているため「あるいは」が入ります。

問三 「一期一会」は、「生涯にただ一度出会うこと。一生に一度限りである」という意味があります。又の後の文に、「この本に出会うのは最初で最後かもしけない」とあるので、アが答えになります。

「一心同体（いつしんどうたい）」…他人どうしが心も体も1つのようになればれる人

「一意専心（いつせんしん）」…1つのことにひだする心を集中する人

「一日千秋（ひちじせんしゅう）」…1日が千年のように長く感じられるほど、非常に待ち遠しい人。

問四 矢印などを書き込んだ地図をあとから見返すと「そのときの思い出」が「よみがえてくる」とあります。「その」が指し示していることを明らかにしてまとめましょう。理由をきかかれているので、文末を「から」で結ぶようにしましょう。

問五 「線を引く」という表現に注目しましょう。「刻印」は「印をほる」と。また、その印。」という意味です。

問六 「無駄の多い読書」とは、本を「斜め読み」と、「丸つてしまつ」ことです。つまり、線を引かずに本を読み、その本を手元に残さないなどが「無駄の多い読書」だと筆者は述べています。線を引いたり、本を手元に残したりする人によるメリットは十二行目から書いてあります。「記憶を呼び起し」たり「発見」や「感慨をもよおし」たり「関心を喚起」したりする人が出来なくなるため、「無駄の多い読書」となつてしまふのです。

問七 文章の進め方として正しくないものを選ぶ問題です。エの「問い合わせる言葉」は文中に出てこないため、エは文章の進め方としては正しくありません。

〔出典 『キッドナップ・ツア』 角田 光代〕

問二 「おとうさんと私」は墓地に「墓参り」で来たのではなく、「肝試し」で来ました。本来の目的ではなくやつて来たよそ者の私たちを「侵入者」と表現しているのです。

問四 「息をのむ」は「おじろいて息をとめる」という意味です。息に関する慣用句は

たくさんあるので、調べてみてください。

「息をひそめる」…存在を気づかれないよう、息づかいをおさえ、じつとしている。

「息をのらす」…息を止め、緊張している。

「息をはずませる」…激しい運動や大きな興奮から、激しい息づかいをする。

問五

(1) 指に強い力を込めておとうさんの腕ををにぎっているヒトリとは、おとうさんが離れたくないヒトリです。おとうさんから離れたくない私の気持ちを考えましょう。肝試しに初めから乗り気ではなかつた私が、お寺で聞いた怖い話を思い返したり、つきあたりの墓地に小さな明かりが灯つてゐるのを見つかりしていきます。その間ずっと指に力をこめていたわけですから、私は「恐怖」を感じながら歩いていたことが読み取れます。

(2) おとうさんは「肝試し」と「やつとの話、本当かなあ」というセリフからもわかるように、初めから幽霊に好奇心をもつていています。お墓に小さな明かりが灯つているのをみつけたおとうさんは「引きがえやすじりじりとそちらに近づいていく」のですが、声は「上ずつて」います。「上ずる」は「声の調子が高くなつて乱れる」という意味です。その光が何かわからず怖さを感じながらも、気になる気持ちがあるところが読み取れます。

問六 「お祝い」はあきらくんが述べてゐるうちに、螢の明かりがあちらから点滅している様子や、「クリスマスみたい」いう言葉から読み取ることが出来ます。「この世ではない」に觸しても、あきらくんが「墓地だから」と述べてゐるうちに、死者が眠る場所だからと考えるヒトもできます。しかし、本文には私が螢の明かりを初めて見たことや、音が消えたように感じてゐるヒトも読みとれます。これらをふまえて、あなたがどのよつに感じたか意見を書きましょう。

問七 風景の描写にはそれがまたとえが使われています。たとえば、「黒い絵の具のついた絵筆を洗つたあと水のやうなそんな色」や「頭の上で葉っぱが笑う」などです。このやうなたとえは比喩(ひゆ)と呼ばれ、読者に風景をイメージさせやすくしたり、印象を強めたりするはたらきをもつていています。特に、物語文で比喩が使われているときは注目しましょう。比喩で表現された部分から、登場人物の心情を読み取ることが出来るヒトが多いからです。先ほどあげた例からは、肝試しで恐怖を感じたり、この先に何があるかわからず不安になつたりしてゐる私の心情を読み取るヒトが出来ます。比喩が出てきたら、そこに何が読み込まれてゐるのか考えてみてくださいね。

三 (語句の問題)

問一 漢字には「音読み」と「訓読み」があります。「音読み」とは中国で読まれていた発音をもとにした読み方で、「山」を「サン」と読む読み方です。一般的には発音を聞いただけでは意味がわからないものが多いですが、「台」のように音読みしかないものもあるので注意が必要です。「訓読み」とは漢字に日本語の読みをあてたもので、「山」を「やま」と読む読み方です。「訓読み」は、聞いただけで意味が分かり

ます。新しく漢字を習つたときは、音読みと訓読みの両方の読み方を覚えるようにしますよう。

問二 慣用句とは、会話や文章で決まった形で用いられ、ある特定の意味を表すものです。身体（足、腕など）・動物（鳥、犬など）・植物（木、花など）・自然（風、火など）などを用いたものが多いので、シャンルパリとに覚えていくのも面白いでしょう。本や会話の中で登場したら、意味も調べ、しつかりと覚えておきましょう。

問三 四字熟語の問題です。ニュースや新聞などでも多く取り上げられているので、四字熟語に出会つたら意味を調べて覚えるようにしましょう。四字熟語を覚えるトコロで、語彙力や表現力が格段に上がりります。かつては手書きした文章を書くトコロが出来るようになりました。

- ①品行方正（ひんけいじょう）…行いがおかしくしていて正しくん。
- ②言語道断（げんごどうだん）…話題もがらがらトコロ。もつてのはがのトコロ。（読み方に注意しましょ。）
- ③空前絶後（くわんぜんぜつご）…非常にめずらしくん。
- ④花鳥風月（かちょうふうげつ）…自然の美しい風物のトコロ。また、美しい自然を鑑賞する風雅な心のトコロ。

— 算 数 —

1 (小問集合) 各 3 点

整数、小数、分数の計算は何度も練習しましょう。また、平均や角度、面積を求めるなど基本的な問題です。問題をよく読んで解きましょう。

- (1) 147 (2) 23.994 (3) 305 (4) $\frac{11}{15}$ (5) 3 (6) 8 (7) 12 (8) 8
(9) 20 (10) 68 (11) 17 (12) 18.84 (13) 6 (14) 7

2 (会話文) (1) 3 点 (2) 3 点 (3) 4 点

会話を読んで、必要なことが読み取れるようになります。

(1) 2056年

(2) 1896年

1899年の前後にある4の倍数の年は、1896年と1900年です。しかし、1900年は100の倍数なので、うるう年ではありません。

したがって、1899年にもっとも近いうるう年は1896年となります。

(3) 20回

2019年から2100年までのうるう年を書き出してみると、

2020, 2024, 2028, 2032, 2036, 2040, 2044, 2048, 2052, 2056, 2060, 2064, 2068,
2072, 2076, 2080, 2084, 2088, 2092, 2096 の20回のみです。

3 (文章題) 4 点

問題文を読んで、数の集まりの関係を整理できるようになります。

6人以上16人以下

バナナとパンの両方を食べてきた人がまったくいない場合、どちらも食べてこなかつた人は、 $40 - (10 + 24) = 6$ 人となります。

また、バナナを食べてきた人全員がパンも食べてきた場合、どちらも食べてこなかつた人は、 $40 - 24 = 16$ 人となります。

よって、考えられる範囲は6人以上16人以下とわかります。

4 (グラフ) (1) 5点 (2) 3点 (3) 3点 (4) 4点 (5) 4点

問題文から必要な条件を読み取り、グラフに対応させることができるようにしましょう。

(1) 九太郎くん

理由 ; (例) ・グラフ①のほうが、傾きが急なので九太郎くんとわかる。

・先に家に戻っているグラフは①なので九太郎くんとわかる。

(2) 20

九太郎くんは国子さんより 20 分早く家に戻っているので、40 分後に戻っていることがわかります。郵便局にはその半分の時間に着いていることになるので、20 だとわかります。

(3) 2160 m

国子さんは、30 分後に郵便局に着いていることが読み取れるので、

$$72 \times 30 = 2160$$

(4) 分速108 m

(3) より郵便局までは 2160 m だとわかったので、

$$2160 \div 20 = 108 \text{ m} \text{ となります。}$$

(5) 24 分後

九太郎くんが郵便局に着いたとき、国子さんは $72 \times 20 = 1440 \text{ m}$ のところにいます。

よって、九太郎くんと国子さんとの距離の差は $2160 - 1440 = 720 \text{ m}$ です。2人は、

毎分 $72 + 108 = 180 \text{ m}$ ずつ近づくので、 $720 \div 180 = 4$ となり、九太郎くんが郵便局に着いてから 4 分後にすれ違うことがわかります。したがって、 $20 + 4 = 24$ 分後です。

5 (平面図形) (1)① 3 点 ② 3 点 (2) 4 点

(1) ① 90°

②直角二等辺三角形

右図から、三角形 ABC は直角二等辺三角形を 2 つ組み合わせたものとわかります。

よって、(ア)の角の大きさは 90° 、三角形 ABC は直角二等辺三角形となります。

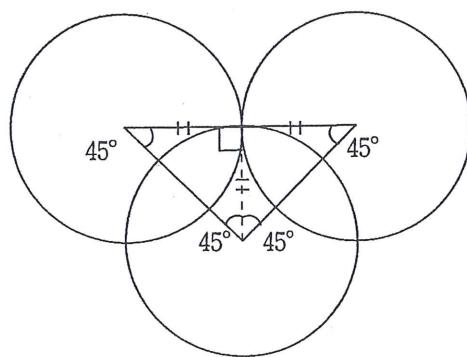
(3) 9.12 cm²

半径 2 cm、中心角 90° のおうぎ形の面積から直角二等辺三角形の面積をひくと、

$$2 \times 2 \times 3.14 \times \frac{90}{360} - 2 \times 2 \div 2 = 3.14 - 2 = 1.14$$

となるので、

$1.14 \times 8 = 9.12$ となります。



6 (空間図形) (1) 3 点 (2) 4 点 (3) 4 点 (4) 4 点

(1) 250 cm²

面積が 25 cm^2 の図形が 2 面、面積が 50 cm^2 の面が 4 面あるので、

$$25 \times 2 + 50 \times 4 = 250$$

(2) 150 cm²

面積が 25 cm^2 の図形が 2 面と 50 cm^2 の面が 2 面増えたので、

$$25 \times 2 + 50 \times 2 = 150 \text{ cm}^2$$

(3) 200 cm²

面積が 25 cm^2 の図形が 4 面と 50 cm^2 の面が 2 面増えたので、

$$25 \times 4 + 50 \times 2 = 200 \text{ cm}^2$$

(4) 450 cm²

面積が 25 cm^2 の図形が 10 面と 50 cm^2 の面が 4 面増えたので、

$$25 \times 10 + 50 \times 4 = 450 \text{ cm}^2$$